

前立腺癌のホルモン療法に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2021年3月3日 ～ 2030年3月31日

〔研究課題〕

ホルモン療法を実施した前立腺癌の経過に関する後ろ向き研究

〔研究目的〕

前立腺癌に対するホルモン療法の、長期の有効性や副作用を明らかにし、有効で安全な治療法としてさらに発展させることを目的としています。

〔研究意義〕

帝京大学医学部附属病院では、泌尿器疾患の原因を明らかにし、正しく診断し、より有効な治療法を開発することを目標として、さまざまな研究を行っています。このような研究活動の基礎になるのが、実際に当科を受診された患者さんの診療録(カルテ)の情報です。患者さんの診療録に記録されている各種の臨床情報、検査結果、治療内容と経過などの医学情報は、病気の解明のために大変貴重なものです。そこで、当科では、過去に当院を受診された患者さんを対象として、診療録に記録されている情報を解析し、患者さんの診療に役立つ情報を取得し、医学の発展に貢献したいと考えています。

前立腺癌は高齢男性に多い悪性腫瘍で、本邦でも急速に増加しています。治療として手術・放射線照射・薬物療法などが行われますが、なかでもホルモン療法は広く実施されています。本研究では、過去に当院でホルモン療法をおこなった前立腺癌の患者さんの診療録を調査し、今後の治療の改善に役立つ知見を得ることを目的としています。

〔対象・研究方法〕

2009年1月1日から2024年12月31日までに帝京大学医学部附属病院泌尿器科を受診され、前立腺癌にたいしてホルモン療法を実施した患者さんが対象です。未成年の患者さんは含みません。診療記録を閲覧し、個人情報が出ないように加工したうえで、背景(年齢、性別、身長、体重、既往歴・基礎疾患)、自他覚所見、バイタルサインを含む診療経過、血液尿検査結果、画像診断結果、治療方法(ホルモン療法の種類、その他に実施した治療の内容とタイミング等)、治療経過(生死を含む最終転帰、入院日数、合併症等)等の医学情報を調査票に記入し、各種の統計解析を行います。研究者は帝京大学医学部附属病院に所属する者に限られます。過去の診療録調査を調査するだけの研究ですので、患者さんの生命・健康に直接影響を及ぼすことはありません。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院 泌尿器科

〔個人情報の取り扱い〕

氏名・生年月日・住所・電話番号・ID番号などの個人情報はすべて個人情報がわからない様に加工されてから解析されますので、個人情報がもれることはありません。研究成果は、医学の発展のために学会発表や学術論文発表などをさせていただくことはありますが、その際も個人の特定が可能な情報はすべて削除いたします。また、研究対象に該当するか否かにより、実際の診療内容に影響はすることはありませんし、研究にご協力していただけない場合でも診療上の不利益を受けることはありません。情報は研究終了後に倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センターにて10年間保管の後に廃棄されます。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 中川徹 (帝京大学医学部附属病院泌尿器科主任教授)

研究分担者: 金子智之 (帝京大学医学部附属病院泌尿器科准教授)

住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211 (代表) [泌尿器科内線 33709]